

甲種

戰史編纂準備書類

第六十七

(67) 浦塩斯德及其防備係諸件

1539

軍二 (67)

明治三十七年六月二十五日

○露國軍隊、動靜

一六月二十五日浦潮斯德松浦中尉より参謀總長宛

鷗林半島事件、関し前々露砲艦「カレエー」號同半島に向テ

去リ當時在現令旗艦「カレエー」號并に巡航艦「ルイタ」號

二艘拔錨準備ヲ整へ命令ヲ待ツモノ、如し然し反當地方軍隊、

動靜ヲ觀察スル一事ノ報告ヲ呈ス可キ情況無之又一般人心

靜謐ニ有之尚ホ露韓國境ノヲヤエフスル地方駐屯軍隊ハ

情況ハ探知ヲ遂ケタル後可奉報告候也

大本 營

報巻(67)明治廿七年六月廿四日

○浦塩斯德港ノ状況

中牟田軍令部長宛

朝鮮事件ニ關シ當港ヨリ出兵事實ニ更ニ其形跡ナク全ク一時ノ訛傳ナリニ
カ如クニ突然ニ兵ヲ出スル意向アルト云ハルト如キハ素ヨリ軍事上機
密ニシテ容易ニ之ヲ探知スル能ハサルモ凡ソ陸兵ヲ出スハ軍艦ヲ派遣スル
ト異ナリ多ク之ヲ準備ヲ要スルカ故ニ常ニ軍隊及船舶ノ動靜ニ注目セハ
或ハ之ヲ豫知スルヲ得ヘシト雖モ現時軍隊情況ハ毫モ平常ト異ナルナク
義勇艦隊及其他汽船等モ亦平常ノ航海ヲシツアルハ殆ント出兵ノ意
向ナキモノ歟ト思料シ莫然ニモ海岸ニ在リ當國ノ軍隊ハ獨リ當港ニ屯在ス
ルニナラスハソオキエツクニモ亦旅團本部アルヲ以テ該旅團ノ兵ヲホシテ
港ヨリ運搬スルハ當港ニ在テハ殆ント之ヲ知ル途ナキカ故ニ不日ホシテ出
張該地ノ情況モ充分探察自的ニ有之ヌ本月初四日頃長崎ヨリ出港セリ義
勇艦隊汽船露西亞號ハ當港ヨリ帰休兵凡ソ八百余ヲ搭載ニテ出帆

シ漢口ヲ經テ本國ニ帰航スルモノ、由ニ有之矣露國出兵ノ説ハ恰モ該
船長崎ニ寄港セル當時ナリシヲ以テ考フル中ハ兵員ヲ搭載シタル露西
軍艦ハ或ハ風説ノ起因トナリシモノ歟ト思料仕矣

軍艦フルニロウルイダニ艦仁川港ニ回航ノ義ハ事實ニシテ数日前其
命ヲ受ケタリト云フ然レモ二艦共未タ出港セヌ尤モルイダニ號ハ廿日追浮
船渠ニ在テ修理中ナリト云フ或ハ該艦工事ヲ落成スルヲ俟テ二艦同
時ニ出發スルナラシメ其地碇泊ノ軍艦ハナヒモアレウト運送船ツンダース
ヤクトシ汽船シラウチ等ニ有之候

當港ニ新聞紙檢閱官アリテ嚴重ニ原稿ヲ檢シ軍事上ノ事ハ悉ヨリ朝
鮮事件ニ関スルモノハ切記載セシメサル様子ニ有之矣尤モ政廳及軍隊司
令官等ニ本國又朝鮮公使館ヨリ何等カノ報知モ可有之矣得共在留
日本人等ハ本邦郵船便ニヨリテ僅ニ情況ノ一斑ヲ知ルニ過キス朝鮮事件
ニ関スル感情ハ一般ニ冷淡ナルモノ如シニ候

右報告仕候也

七年六月廿五日

在浦塩新徳港

西山実親

中年田海軍少令部長殿

報載(67) 明治廿七年七月十日

露國出兵ノ意向及軍艦ノ現状

五浦達新機

西山海軍大尉

常港ヨリ出兵スル否ハ充分ニ注意シテ之ヲ知ラレテ務メカリシを更ニ其
要領ヲ得サリシカ近來稍、確實ナル事件ヲ傳聞セリ即チ、ハウォーターキエフス
クヨリ歩兵大隊ト砲兵一中隊ヲ出ス、一事ナリトス然レモ其向フ所甚明
瞭ナラス一ハ清韓國境ナリト云ヒ又ハ元山津ナラント云フト雖モ信スルモ
足ラス又海路之ヲ出ス、準備ハ一面見聞スル所ナキヲ以テ見レハ國境ノ説或信
ス近カラシキ兎ニ角、ハウォーターキエフスニ於テ出師準備ヲナシツ、アルハ實説
ナルカモ其目的、政略的ナルカ又他ノ野心アル歟ハ容易ニ之ヲ知り得可キニ非ス
他日出兵ノ實跡ヲ見タルノ右電報可任責

軍艦「フニニー」^{「フニニー」}「ルイ」^{「ルイ」}二艦朝鮮ニ向ヒ出発スル旨要ニ報告仕置ル處
今日ニ至ル點依然在海セリ尤モ本月三日ヨリ七日ニ至ル迄兩艦共一時出
港セリカ近海ニ於テ艦砲射撃ヲナシタルニ依レリト云フ又旗艦ナヒモ之及在

港船隊ハ出港、準備整と居ルモノ、如クナルモ其詳細ヲ知ル能ハス現
時在泊軍船ハ左ノ如シ
旗船「ナヒモツ」巡視船「ユルニコロ」同「ルイ」
砲船「ホーガル」同「エウ」同「マニダニール」同「アレウ」
義勇船隊汽船「クレボ」及運送船二艘
右報告仕マセ

報四 廿七年九月四日

浦塩通信

一 本月(九月)四日浦塩出及候、露艦クレセト號ハ朝鮮ニ向ヒシヲ
ラス樺太ニ回航シタルナリ

一 露艦マシジュール號ハ是迄役務ヲ解カレ居リレニ今回更ニ大平洋
艦隊ニ編入セリ當時浮船渠ニ在リテ修理中ナリ

一 在港ノ各軍艦ハ先月来兩三日間數々港外ニ出テ、射撃ヲ演習ス
又各砲臺ヨリモ時々射撃ヲ施行ス

一 近來アルール江ニ面スル高地ニ一砲臺ヲ増築シマツアリ一砲座ノ落成
スルキハ直ニ砲ヲ搭置スルモノ、如ク現今唯々一門ノ備ハアルヲ見ル而シ
テ常港砲台ハ尚ホ數々所増築ノ計劃アルカ如シ

大本營

報九 (67)

十一月三日

○浦塩斯德港ニ於ケル露艦

浦塩斯德通信 大海報第二十八号

ルイナダ号 十月九日元山ニ向ヒ出港同十九日帰港ス

設艦ノ元山ニ回航セシ理由ハ在元山露商「シベリオフ」出張者ハ
夜間日本人數名闖入シテ同者倉庫内ニ預リアリシ支那商
人所有ノ貨物及其他ノ物品ヲ掠奪シタルモノアルニ依リト
云フ設艦ニハ同出張者支配人「グレイ」氏(グレイ氏ハ旧語學校
雇露諸教師)乗艦
出張セリ同氏カ上野領事ニ談判ノ結果ヲ聞クニ領事ハ
當時如斯事實アリタルヲ知ラス又或ハ韓人ノ所為ナラン歟
トモ答ヘ應答頗ル不信切ニシテ満足スル能ハサリシト云フ又談
艦ハ此事件ノ為メニ回航シタルモ領事ハ之ヲ訪問セカリシヲ

以テグレイ氏ハ素ヨリ艦員ノ内ニモ頗ル不満足抱キ居ルモノ
アリタリト云フ

ラスボイエック号 十月廿日堪察加近海ヨリ入港ス

ガビヤールカ号 十月廿二日堪察加近海ヨリ入港ス

クレイセル号 十月三十日出港

ルインダ号 十月三十日再ヒ出港

右二艦ハ禮砲ヲ奏セシテ出艦セシニ付多分近海ノ航行ナラニ
欺或ハ冬期航海ノ爲ノ出港セリト云フモノアリ

旗艦アドミラルナヒモフ号及ヒアドミラル、コルニロフ号

右二艦ハ十月三日出港セリ例年ノ如ク冬期航海トシテ日清
近海ニ向ヒタリト云ヒ又二週間内外日清近海ヲ巡航ニ再ヒ歸
港ノ上更ニ出奔スト云フ説アリ

ガビヤールカ号 當時在泊スト虽モ不日出港朝鮮國諷港ヲ巡

航し二週日、後帰港直ニ冬期航海ノ為ノ出港日本ニ向ヒ
十月三日頃神戸又ハ横濱港ニ着航、豫定ナリト云フ
前記、如ク露國太平洋艦隊ノ在泊スルモノハ現時「ガビヤーク」号
一隻ノミ

「マンジュール」号ハ先頃ヨリ艦隊ニ編入セラル、ノ説アレ氏未タ其運ニ
至ラス

「ルインダ」号（「パリーシヤチス」アゾフト交代）「クレイセル」号ノ二艦ヲ冬期航海ニ出港

シタルモノトモ且ツ其他ノ軍艦モ一説、如ク再ヒ帰港スル「ナキモノト

スレハ」當港ニハ来年四月ニ至ル迄太平洋艦隊ノ軍艦ナカル可シ

日清事件ノ為、當年ハ冬期航海ヲナサレハ哉ニ想像スルモノアレハ

例年ノ如ク本月中末ク出港（毎年順番ニテハ艦二隻ヲ在港セ）（来年四月

ニ至ル迄）日清近海ヲ巡航スル事ハ確實ナル由ニ有之矣

露國皇帝陛下ノ崩御及皇太子殿下ノ即位

皇帝陛下崩御ノ電報ハ昨朝發シタリ在港ノ各艦ハ國旗ヲ半
下ニ諸桁ヲ轉倒シタ午前十午及午後ノ三回ニ吊禮分時砲
ヲ發セリ又寺院ニテ誦經アリ
本日ハ即位式ニ付各艦滿艦飾ヲナシ又寺院ノ誦經アリ
タリ

廿七年十一月三日

牒

(67)

(註)

廿八年一月廿四日

露國、通信

露國通信

補記要列著ノ件

本月十日当港着ノ義勇艦隊「カストロ」号ニ
テ要員凡ソ八百名(或ハ云フ七百六十名ナリト)到着セリ談
及ハ毎年春期渡航スル処ノ新募兵ニ非スシテ
本国ニ於テ訓練ヲ經タルモノナリ而シテ其大
半ハ元員トモラニリス。送ラシタリ
連發銃及輕便軍用車到着ノ件
現今当港及附近ニ在兵ノ使用スルベルタシ銃
ヲ新式連發銃ト交換スルト云フハ昨午十月

頃ヨリ聞知ニ居リタリシ力今四未航ノ新勇艦
 隊後船カストロマノ連突銃若干授テ斬
 送ニオシリ当港ニテ探南スルニ連突銃ソ并後
 三回ニオシ二午二白挺到達ニ各大隊ニ三百挺家ヲ
 既布ニオシ士ヲ授板ニ之ヲ使用セシムル答ナ
 リト云フ依テ南兵其他兵士ノ携帶スルモノ
 注意スル此依然旧来ノべルタニ銃ナリ当港ニ
 五寒ノ為ノ各官ノ室内ニ於テ冬期間教練ヲナ
 スニ付實際連突銃使用ノ訓練ヲナシ居ルヤ否
 ヤヲ確知シ難ニ連突銃輸送ノコトハ頗ル秘密
 ニナシ居タルカ如ク其員数等モ相原書記カ
 コリスリニ於テ聞得タルモノト大差アリ此探
 問ノ供報告ス但ニ二午二白挺ト云フ數ハ当港

リス止其他ヲ經テ臨時換院ノ為ノ来港スル筈	既ニ昨秋ニ来港セシアリシカ近日又々ニ	当黑龍總督ノ換院ハ每年秋期一回ヲ恒例トシ	總督来港ノ件	如ナリ物品ヲ陸揚セシ教道ニテ如何程運	所ト教道局トハ相接近ニアルカ故ニ何時	因ニ記ス義勇艦隊ノ埠頭及物品格納	送ニ来リタレ其數ヲ確知スル能ハス多クハ	ノ兵員ニ交附シタルモノニナラン歟
-----------------------------	---------------------------	-----------------------------	---------------	---------------------------	---------------------------	-------------------------	----------------------------	-------------------------

ナリ
 近來兵買五連泰銳ノ到着ニタリ為メニヤ当港
 五ニコリスリ遠ニテハ種々ノ風説アリ依テ
 實況偵察ノ為ノ相原氏ヲコリスリニ派シタ
 ルニ奉ニ任友商店員某氏ノ紹介ヲ得テ粗撃身
 四大隊才三仲隊長ヲコルニヤコシ氏ヲ訪問
 ニ終偶々日清事件ニ係リ左ノ諸件ヲ告知スル
 ヲ得タリ
 仲隊長ヲコルニヤコシ氏ハ隣邦ニ戦争アル
 ニ際ニ板金之ニ干渉ヲナサハルニモ相当ノ警戒
 ヲ加ヘサルハ隣家ニ火災アルニ更ニ警戒ヲナ
 サハルト一般ニテ頻リニ露國力邊疆ニ兵ヲ
 動ス可キノ緊急ナルヲ説キ近日梭聞ノ為メ総

督力同被ニ来者ニタル后ハ訓令ヲ發シテ三月
 前ニ柯シノ地ニ向テカカテ發スルコトナルハ
 キヲ終ニタリシト
 又同中隊長ハ頻リニ新式連發銃ノ銳利ナルヲ
 誇リ豆官ニ就テ豆士ノ訓練及連發銃ヲ實見セ
 シヲヲ勸メタルニ依リ相原ハ身四大隊ノ兵長
 ニ任キタルニ官内ニテハ恰ニ新ニ交付セシ連
 發銃使用ノ教練中ニミテ中隊長ノ説明ニ依リ
 ハ新銃ハ
 一八九一年式マリーニヤ口至步兵連發
 銃^{（マリーニヤハ我ハ重三分隊）}ト稱シテバリシ式銃ニ依リテ改良
 ヲ加ヘ現今政明各國ニ於テ使用スル連發銃中
 最ニ完全ナルモノト誇稱セリ該銃ハ五連發ニ

シテ岸丸ニハニツケル帶ヲ用ヒ無煙火藥ヲ便
 用ス試射ノ結果ハ三百メートルトシノ巨砲ニ於テ
 厚サ三寸ノ木板十六枚ヲ貫徹シ二露里（一露里
 ハ我九丁ノ三向ノ遠巨砲ヲ確射ス又從來使用
 シタルベルグダシ銃ヨリ輕キ凡一フシト半
 （一フシトハ百丁ノ一）ナリト云フ現時ニコリスクニ在ルモノ
 ハ三万挺ニシテ二ヶ月前ヨリ漸次ニ到着ニ現
 在豆ニ分駐シタルモノ、外ハ倉庫ニ格納シ置
 キテ豆數ヲ増加シタルトキノ用ニ供スト云ハ
 リ
 ベルグダシ銃ハ倉庫ニ格納スルノ目的ニテ兵營
 ノ一重ニ於テ入函ノ準備ヲナセリ但ニ當分所
 在等ニハ之ヲ渡シ又豫備兵ヲ招集シタルトキ

ニ渡スト云フ

輕便車用車ハ中隊長ノ言ニ依レハ漸次ニコリ
ス込ニ到達セラルモ、三千輛ナリト云フ

馬一カザリノ騎兵役所ノ設立

右馬一「カカ」ノ騎兵役所ハ一ヶ月前ニザバイ

カ「ル」ヨリ「ニ」コリス込ニ引移リタルモノ

リ兵員ハ甚々小數ニテ、且事務所失ケテ設ケ

タルニ過キス「カ」バイ「ル」ノ騎兵役所ヲ「ニ

コリス込ニ移ストハ先年ヨリ計畫アリタルモ

ノナリト聞ク又其他ニ「今」タルヨリ二十五名ノ

騎兵ヲ著セリ

カストロ「ル」等ニテ渡航セラル八百ノ兵員ハ「ニ

コリス込ノ大隊一隊ニ五十名宛ヲ補充セリ

ト云フ

二コリス、現在、中隊長ノ云フ所尤、如シ

東、北、利、祖、華、馬、一、旅、團、本、部

同、馬、三、大、隊

同、馬、四、大、隊

同、馬、五、大、隊

馬、二、輕、砲、中、隊

馬、四、輕、砲、中、隊

山、砲、隊、半、中、隊

外、二、豫、備、兵、四、千、ア、リ、近、在、二、在、ヲ、農、業、及、其、他

ノ、事、業、ニ、従、事、ス、ト、云、フ

昨、年、十、月、頃、民、有、馬、匹、ノ、調、査、ヲ、ナ、シ、タ、リ、ニ、ハ、確

定、ナ、リ

一大隊、四、百、中、隊、ヨリ、身、立、ニ、一、中、隊、ハ、現、時、ニ、九、五、
万、重、三、百、名、一、大、隊、ニ、付、馬、匹、九、十、頭、ナ、ル、今、
四、百、頭、ニ、補、充、ス、ル、ト、云、フ

一、中、隊、ノ、人、員、二、百、名

右報告仕要也

明治十八年一月廿四日

在浦塩斯德瑞

西山大尉

子爵樺山中將殿

牒(67)

廿八年一月廿七日

○浦塩新德港司令官ノ訓令及載水ノ景況

浦塩新德通信二十八年三月十二日發

浦塩新德港司令官訓令 舊曆一月十五日ノ件

目下有事ニ備フル為メ港内ニ碇繋セル砲艦「コレー」号、
「ニジュー」号并ニ水雷艇「ウスー」号、「スー」号、「ヤンチー」
号及「スチー」号ヲシテ一令ノ下直ニ太平洋艦隊ニ連合
ノ為メ出港スルノ準備ヲナスヲ緊急ト認ム依テ該艦長艇
長及ヒ軍港工場ノ諸技士長ニ訓令スル前記諸艦艇ハ各部
ノ脩理工事ヲ急速ニ結了シ成ル可ク速ニ該艦艇ノ出港準
備ヲ整頓スルヲ以テス

以上諸艦艇ノ工事ヲ急促スルト同時ニ軍港附属諸艦艇ノ
脩理工事モ其就役豫定表ニ準シた記ノ期限迄ニ必ス結了

ス可キヲ訓令ス

運送船「ツングース」号ハ露曆四月一日迄ニ修理工事ヲ了
リ七ヶ月間就役ス可シ内一ヶ月ハ機関ノ試運轉六ヶ月
ハ水路研究及ヒ燈台ノ用ヲナスヲ

運送船「アンウー」号モ四月一日迄ニ修理ヲ了リ五ヶ月
間就役ス可シ内一ヶ月ハ実測隊ノ用四ヶ月ハ実地練習
隊ノ用ヲナスヲ

運送船「エルマーク」号五月一日迄ニ修理ヲ了リ六ヶ月間
ベーリング海巡航就役スルヲ

射的場勤務部ハ五月一日迄ニ諸工事ヲ了リ夫ヨリ四ヶ
月間就役其一部ナル水雷艇三艘ハ六月一日ニ役務ヲ始
メ三ヶ月間就役スルヲ

軍港附屬船「ポリガ」号浮船渠クレイン其他浮働機ハ開航

期迄ニ諸工事ヲ了リ開航期中就役スルコト

前記砲艦「コレー」ツ号「マニ」ユール号等ハ結氷中海軍器械
塲ノ海岸ニ碇繫シテ堅氷ニ突チ込メラレ其乗員ハ例年ノ
如ク海軍団營舎ニ歸リ營内ニテ諸操練等ヲナシ居リシガ
今般司令官ノ訓令ニ基キ出港ノ準備ヲナセシト虽氏該繫
泊所ヨリ義勇艦隊埠頭ノ辺迄ハ厚二呎乃至三呎ノ堅氷凍
結シテ常ニ人馬ノ往来スルアリ艦艇ノ出港ニハ勿論該堅
氷ヲ破碎セサルヘカラス初メ「コレー」ツ号其他ノ艦艇ハ我
二月廿八日頃迄ニ出港スルトノヲナリシカ堅氷ノ破碎ハ
漸ク三月六日ヨリ着手セリ軍港司令官ハ金角港ノ入口即
チ「シラー」チ号カ既ニ切リ割リタル所ヨリ「コレー」ツ号等ノ
守先碇繫スル所迄ノ截氷ヲ命シタルニ由リ同日ヨリ海軍
團ノ水兵四十名ニ士官二名ヲ附シ之ヲ二分シテ互ニ交代

セシノ一部午前六時ヨリ正午迄他ノ一部ハ正午ヨリ午後
六時迄截氷ニ從事セリ又翌七日ヨリ更ニ水兵百五十名ヲ
増シ士官二名下士八名ヲ附シテ該工事ニ就カシメタリ碎
氷ノ方法ハ初ノ鉄槌及鋸ニテ海軍器械場ノ方ニ向ヒ結氷
ヲ切り割り其切り割リタル所ヲ更ニシラハ一ヶ号ヲシテ破
碎セシメシラハ一ヶ号ノ進退自由ナラサルニ至レハ少量ノ
火藥ヲ用ヒテ之ヲ破碎シシラハ一ヶ号ハ一進退漸次ニ堅
氷ヲ破碎シテ遂ニ海軍器械場ノ前面迄一条ノ堀割ヲ開穿
セリ近日中ニ水兵二百二十八名ニ士官五名ヲ附シ海軍大
佐某氏ヲ監督トシテ前記二艦ヲエゲリセリシ岬火藥庫ノ
近辺迄曳キ出シ彈藥石炭等ヲ積載ス可キ旨軍港司令官ヨ
リ命令アリタル趣ニ付「コレ」シ号「マ」シ号ハ該堀割
ニ依リテ火藥庫ノ近辺迄曳キ出サルコトナルヘシ

当港ニ於テ冬期堅氷ヲ破碎シテ船舶ヲ出入セシメタルハ
本年一月廿六日義勇艦隊汽船「カストル」で「1号」ノ出港ヲ以
テ嚆矢トス次テ又義勇艦隊埠頭ヨリハ遙ニ内方ニ在ル砲
艦二艘ヲ出スニ至レルハ隣邦ノ交戦ヲ利用シテ堅氷中能
ク艦船ヲ出入セシメ得ルヤ否ヤヲ試ミタルモノナラン而
シテ其結果ハ今回ノ如ク良好ニシテ碎氷船「1号」ト
多少ノ兵員ヲ以テ数日ノ間ニ堅氷ヲ破碎シ得タルヲ見レ
ハ今后露國カ一二艘ノ碎氷船ヲ増加シ常ニ碎氷ニ従事シ
タランニハ冬期結氷中ト虽モ自由ニ艦船ヲ出入セシムル
ヲノ難カラサルヲ証スルニ足レリトス

勝 (67)

○渡航、魯國兵負及、此在兵

本年春期渡航セシ兵員并ニ附近在兵ノ件

本年二月以降義勇艦隊汽船續々入港シ之レニ搭載シ来レ
ル兵ハ「ペテルブルグ」號ニテ新兵一、五〇〇「サラート」號
ニテ新兵一、五二〇(雑カ十四号ニカガーク)以上新兵ハ今回
ノ東洋事件ニ係ラス補充ノ為メ毎年春期渡航シ来ルモノ
ナリ且ツ数月間本國ニテ訓練シタルモノナリト云フ其他ハ
「カガーク」屯田騎兵ノ移植ニシテ「ハバロ」ウスク「号」ニテ五
〇〇「モスクワ」号ニテ七六三(内男兒)又内地ニテハ「サバイ
カ」州ヨリ「ウス」地方ニ向ケ百五十戸ノ「カガーク」兵
ヲ移殖セシアリ故ニ沿海州ニ於テ俄カニ増加シタルハ右
新兵三、二〇〇ト屯田兵一、〇〇〇内外ト召集セル豫備後備

謀

廿八年二月以降

本年春期渡航セシ兵員并ニ附近屯田兵

本年二月以降義勇艦隊汽船續々入港シ之レニ搭載シ来レ

ル兵ハペテルブルグ號ニテ新兵一、五〇〇「サラート」號

ニテ新兵一、五二〇（維力十四号ニカガーク）以上新兵ハ今回

ノ東洋事件ニ係ラス補充ノ為メ毎年春期渡航シ来ルモノ

ナリ且ツ數月間本國ニテ訓練シタルモノナリト云フ其他ハ

「カザーク」屯田騎兵ノ移植ニシテ「ハバロ」ウスク「号」ニテ五

〇〇「モスクワ」号ニテ七六三（内男兒）又内地ニテハ「サバイ

カ」州ヨリ「ウス」地方ニ向ケ百五十戸ノ「カザーク」兵

ヲ移植セシヤリ故ニ沿海州ニ於テ俄カニ増加シタルハ右

新兵三、〇〇〇ト屯田兵一、〇〇〇内外ト召集セル豫備後備

兵ナリトス

今参考ノ為メ沿海州其他附近ノ兵數ヲ概擧スレハ左ノ如シ

浦塩斯德

東部悉比利線列第一、第五、第七、第八、第九大隊

一大隊ヲ千人トシ

東部悉比利工兵中隊

要塞砲兵

隊三

水雷隊

(一八九四年ヨリ工兵ニ附加シ水雷ニ從事スル陸兵ナリト云フ)

カザーク騎兵

ニコリス村

東部悉比利狙撃第三、第四、第五大隊

第二輕砲中隊

第四山砲中隊

兵數不詳

ラズドリヨイ村

東部悉比利狙撃第一大隊

一、〇〇〇

アヌーチノ宿營

東部悉比利狙撃第二大隊

一、〇〇〇

カザノク騎兵第五百人隊

凡ソ一五〇

バラバン宿營

東部悉比利狙撃第八大隊

一、〇〇〇

カザノク騎兵第四百人隊

凡ソ一五〇

アタマノウスコエ宿營

沿海州騎兵第一百人隊

凡ソ一五〇

ノウカキエフス

東部悉比利狙撃第七第九第十大隊

三、〇〇〇

第三第五山砲中隊

未詳

ボシエー

東部悉比利祖擊第六大隊

一、〇〇〇

フンチエンスキ

沿海州騎兵第二百入隊

未詳

カーメニルイバローウ

騎兵三中隊

百人隊

サバイカール騎兵百人隊

ハバローウス

東部悉比利線列第三第十大隊

二、〇〇〇

山砲半中隊

ニコラーエウス

東部悉比利線列第六大隊

一〇〇〇

アラゴウエシチエンス

東部悉比利線列第二大隊

一〇〇〇

右報告仕候也

廿八年五月十二日

在浦塩港

西山実親

子爵榊山資紀殿

[illegible]

大 本 堂

1573

牒 (64)

廿八年四月十日

○露國ヨリ来航スベキ兵員移住民及囚人
海老カ一号

在浦塩斯德港

西山海軍大尉報告

義勇艦隊汽船ニテ春期渡来スル兵員移住民
及囚人ノ件

義勇艦隊委員ヨリノ報道ニ本年春期当港ニ来航ス可キ汽
船ニテハ普通乗客并ニ各種ノ荷物ノ外左記ノ兵員移住民
及囚人ヲ搭載シ来ル可シ

露曆三月三十日

彼得堡号

新兵

一、五〇〇

四月十五日

ヤロスラウ号

囚徒

七八五

廿二日

サラトウ号

新兵

一、五〇〇

廿九日

モスクワ号

ドニエチン及ヒ
オレニルグスキー

カザン屯田兵七六七

五月四日 ニシキ、ムジツ号 移住民(農) 六九四

十二日 タンボウ号 ドスキ、カ、リ、ヒ田兵一、〇〇〇

廿五日 アリヨール号 移住民(農) 一、四〇〇

六月十五日 カスロー号 移住民(農) 七六五

以上記スル所ニ依レハ本年春期新兵ノ渡来スルモノ三、〇〇〇、カザーク屯用騎兵一、七六六七トス而シテ目下目清交戦中ナルカ故ニ多数兵員ノ渡航ハ多少人目ヲ引クノ觀アレ氏毎年春期渡航スル義勇艦隊汽船ニテハ多数ノ新兵ヲ搭載シ来リテ帰途豫備役ニ入りタルモノヲ送還スルヲ常トセリ又「カザーク」騎兵ハ前總督「ル」中將ノ片ヨリ之ヲ滿州境界ニ増加スルノ必要ヲ感シ既ニ昨年開戦以前ニモ西伯利内地ヨリ漸次之ヲ該境界ニ派出スルヲニ着手セリ曾テ報告セルカ如ク「ニコリス」ニ「カザーク」騎兵ノ事務所

ヲ新設シ又此回渡航スル騎兵ノ如キモ右ノ必要ヨリ生シ
タルモノニシテ日清交戦中ナルカ故ニ殊更ニ増遣セルモ
ノニ非ラサルモ日清交戦ノ影響ハ自然東部西伯利即チ当
港附近ノ兵備ヲ整頓セシメツ、アルハ疑ヲ容レサル所ナ
リ又近時一二本邦新聞紙ニ記載シアルカ如ク露國ハ四十
艘ノ軍艦ト六万ノ陸兵トラ当港ニ輸送シ来ルト云フカ如
キハ素ヨリ其虚構ナルヲ断言スルニ憚ラサル所ナリ

二十八年四月十日

大本營

牒 (67)

廿八年四月廿七日

○義勇艦隊會社ノ汽船搭載ノ兵

電報 四月二十八日午後一時五十分 佐世保支

陸兵ヲ乗セタル露國義勇艦隊會社ノ汽船「サタト」号ハ四月
月二十七日午後七時浦汐斯德ヘ向テ出港セリ右ハ比田兵
ナラト言フモノアレ氏今田ノ兵ハ家族携帶ノ者ナシ(海免
カ一ノ老四)

大本 營

1577

牒 (67)

廿八年

四月下旬ヨリ
五月下旬ニ至ル

大森カ六一号

○「ウスリ」地方ニ露兵及移住民増加ノ件

「ウスリ」地方ニ年々間断ナク兵員及移住民ノ増加スルハ
既ニ分明ナル所ナリ就中本年ハ最モ其著シキヲ見ル本年
五月下旬迄ニ發着シタルモノヲ掲クレハ概子左ノ如シ

下士卒一千五百名

訓練
シタル者

四月下旬浦潮港着

同 六十名

訓練
シタル者

五月十五日同港着

同 八百十九名

訓練
シタル者

五月十四日「オデッサ」港發

計二千三百七十九名

移住民凡一千名

四月下旬浦潮港着

同 三百五十名

五月上旬全港着

「ユザツ」移住民六百九十七名

五月上旬浦潮港着

同 一千〇十四名

五月下旬同港着

計三千。六十一名

右「ゴザツク」一千七百十一名ノ内ニハ有名ナル「ドン」及「カレンブル」等ノ「ゴザツク」兵アリ「ウスリ」鐵道線路ニ配置スル者ナリト云フ總人負ノ内老幼婦女子ヲ除クモ騎兵二中隊ヲ編成スルニ餘アリ

以上兵員及移住民ハ海路ヨリ浦潮港ニ着スル者ニシテ尚此外ニ陸路西伯利ヲ經テ黑龍及「ウスリ」地方ニ來集スル者アリ其人負末々詳カナラスト虽氏例年ノ如ク新兵汽船ニ乘シ黑龍江ヲ下ルノ外本年ハ筏ニ乘シ「バイカル」首府ヲ發シ「シルカ」河ヲ下リテ黑龍江ニ出テ以テ南下スルモノナリ新聞紙ニ記載スル処ニコレハ

新兵第一第二第四第五部隊及東部西伯利線列步兵第四大隊(「バイカル」湖ノ南蒙古境ニ在セシ者)ハ筏ニ乘シ「シ

ルカ河ヲ下レリ而シテ第一第二及第四部隊ハ五月廿四
日ニ又々第五部隊及練列大隊ハ同月廿六日スツレテ
シスツラ通過セリト

又タ曰ク

五月二十四日新兵最後ノ部隊第三部隊ハ五百四十名ハ十
四個ノ筏ニ乗シラ夕府ヲ發シブラゴウエシテユンスク府ニ
向ヘリト

從來移住民及牛馬等ヲ筏ニ乗シテ黒龍江ヲ下スハ慣習ニ
シテ最モ便利ナル方法ナレ氏軍隊ヲ筏ニ搭載スルハムラ
ビヨフ將軍黒龍地方遠征今ヲ去ル四十餘年前后稀有ノ事ナルヘシ

右諸兵ハ任地到着迄ニ幾日ヲ費スヘキ力之ニ参考ヲ為メ
最モ注意スベキ事件ナリ又々五月中旬リヤサン府ノ近傍
リ在ラ發シ陸路黒龍軍管ニ向ヒシ砲兵二中隊ノ途中ニ費

スヘキ日数モ亦タ注目スヘキ一事ナリトス
斯ノ如ク軍隊ヲ筏ニ搭載シテ黒龍江ヲ下スヲ容易ナリト
セハ同江船舶ノ多寡ヲ以テ彼ノ軍隊東洋ニ集中スルノ遲
速ヲ云々スルヲ得ス蓋シ黒龍上流鬱蒼タル森林ハ露國全
軍ノ筏ヲ製シ得ヘシ然リ而シテウスリ地方糧食ノ辦否
如何近年ノ統計書ヲ見ルニ

明治十七年ウスリ地方農民ノ數ハ一万七千人ニ過キ
カリシニ十七年ノ後即明治二十四年ニハ三万〇四百餘人
ニ増加ス而シテ收穫スル麦類ハ自家ノ用ニ餘リアリテ
近來陸軍監督部ニ買上ル數ハ

明治十七年	一六〇、〇〇〇	ブード
同十八年	一六八、〇〇〇	同
同二十年	一八三、〇〇〇	同

同 二十三年

二九四、〇〇〇

同

同 二十四年

六〇〇、〇〇〇

同

又黒龍州ニ於テモ明治二十三年七十二万ポンドヲ買上
ケタリ

右ノ比例ヲ以テセハ現今ハ年々二百万ポンド餘ノ購買ヲ
ナシ得ヘキカ。露國陸軍ノ定額ニヨリ一兵卒一ケ年ノ食麦
二十七ポンド強トスレハ即チ二百万ポンドノ麦ハ七万四
千人餘ヲ養フニ足ルヘキ割合ナリ之ニ因テ之ヲ考フレハ
彼ノ糧食補給困難ナリトテ黒龍地方ニ集中スル露兵ノ多
寡ヲ云々スルカ如キハ既ニ今日ニ於テ取ルニ足ラサルノ
論ナリトス況ンヤ六年ノ後ニハ西伯利鐵道ノ開通スルカ
リ地方農業牧畜ノ發達亦々期シテ待ツヘキモアルニ於
テラヤ

世人往々西伯利ヲ以テ不毛ノ地トナス何リ畝ラン不毛曠
漠タル大陸ノ中一帯ノ豊土一千餘里東西ニ連亘スルモノ
アラントハ現在ノ西伯利街道及未來ノ大鐵道ハ皆此帶中
ヲ通過スルモノナリ其トムスシオムスシ兩縣ノ如キハ農
業牧畜最モ盛ニ行ハレ物價ノ低廉ナル全露國中ニ冠タ
リト聞ク唯占領後僅々四十余年ヲ經過セシ黑龍地方ノ
新開地ナルモノバイカル州以西ノ之ヲ歐露ニ比シテ甲乙ノ
差ヲ附スルヲ得ス故ニ多數ノ軍隊ヲスリテ地方ニ集中ス
ルモ糧食ノ補給ハバイカル州以西ノ物資ヲ以テ之ヲ辦シ
毫モ差支ナキモノト假定セサルヲ得ス

抑々西伯利經過ハ大ニ困難ナルモノニ非ス前記砲兵二中
隊ノ外又別ニ一例アリ新聞紙ノ報スル処ニ拠レハ

過般黑龍地方勤負ヲ行フニ當リ總督「ドホフスコイ」中將

ハ露京ニ電報ヲ飛シテ赤十字社移動病院(百人入)二個ヲ
請ホセリ同社ハ直ニ「カザン」モスコウ府ノ東二百五十里ニ在ルモノヲ陸路
ヨリ「バイカル」地方ニ又「オデツサ」ニ在ルモノヲ海路浦潮
港ニ發送セリ該病院ニハ材料及醫師殊ニ看護婦等數多
附屬シタルモノナリナリ

若シ一朝事アリテ歐露ノ兵ヲ東洋ニ汎遣スルモノトセハ
之カ成否ヲトスルニ西伯利經過ノ難否ヲ後ニシテ欧州ノ
形勢其出兵ヲ許スヤ否ヲ先ニシテ可ナリ

明治二十八年七月九日



